

新しい時代の幕開け | 小倉のまちの様子を調べよう

1 単元の概要

江戸時代の小倉城下町は、海陸交通の要の地として発展しました。博物館をはじめ市内には江戸時代に関する様々な資料が残っています。それらを活用して、江戸時代の交通や人々の暮らし、文化について学習していきましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 長崎街道の様子（黒崎宿や木屋瀬宿等）や、小倉城下町の様子、人々の暮らしについて調べ、交通が発展していった様子や文化が栄えたことを理解させる。
- 博物館の江戸時代に関する具体的な資料や見学など、郷土に関する資料の活用を図り、江戸時代の小倉のまちのイメージをもつことができるようにする。



豊前小倉図

3 指導計画（総時数5時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 江戸時代の江戸・大阪・京都のまちの様子について話し合う。 ・日本橋付近の様子 ・大阪の港のにぎわい	◆ テーマ館通史イメージ映像「路-北九州の人々の歩みと交流-」を活用。 ○ 人々の暮らしや文化、社会の変化について問題意識をもたせるようにする。	1 時間
II 江戸時代の文化の様子について調べる。 ・歌舞伎 ・浮世絵	○ 新しい文化を当時の人が楽しんだ様子をとらえさせるとともに、江戸時代に生まれた文化が現代の暮らしの中に引き継がれていることに気付かせる。	1 時間
III 江戸時代の交通や産業の発達を調べる。 ・街道や航路 ・各地の特産物	○ 街道や航路の整備によって人々や物の行き来が盛んになり産業が発達し、人々の生活が豊かになっていったことに気付かせる。	1 時間
IV 江戸時代の小倉の城下町の交通の様子や人々の暮らし、文化について調べる。 ・江戸時代の城下町の様子 ・小倉のまちの人々の様子や文化	■ 博物館での学習 ○ 博物館の展示物の見学を通して、江戸時代の小倉城下町の様子や文化についてとらえさせる。 ◆ 西国内海名所一覧 ◆ テーマ館・江戸時代の北九州の展示品	1 時間
V 江戸時代の新しい学問や教育について調べる。 ・国学と蘭学 ・寺子屋や藩校について	○ 新しい学問が世の中に与えた影響について話し合う。	1 時間

4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
江戸時代の小倉城下町の様子や文化について調べよう。		博物館での学習 1 時間
I 江戸時代の小倉城下町の様子について調べる。	○ 博物館にある小倉城下町のジオラマや「西国内海名所一覧」などの簡単な説明をもとに、当時の小倉城下町の様子や人々の暮らしについて概観させる。 ○ 展示品の紹介文から、当時の小倉城下町について調べさせる。 ○ 長崎街道に関する展示等から、江戸時代に交通が発展していった様子をとらえさせる。 ○ 観察して気付いたことなどをワークシート1に記入させる。	◆テーマ館 ◆江戸時代の北九州の展示品 ◆小倉城下町のジオラマ ◆西国内海名所一覧 ◆長崎街道に関する展示 ◆黒崎宿古図 ◆木屋瀬宿図絵馬
II 小倉のまちの人々の様子や文化について調べる。	○ 博物館内の展示品から、江戸時代の小倉のまちの人々の様子や文化について調べさせる。 ○ 調べたことをもとに、ワークシート2に記入させる。 ○ 小倉のまちが、交通の要衝であったことから、人やものが集まり産業が発展していったことをとらえさせる。	◆上野焼に関する展示 ◆輸入陶磁器に関する展示 ◆小倉織と小倉縮に関する展示 ◆名産と名所 ◆町と商人 ◆外国の文化
III 分かったことや感想をまとめる。	○ 博物館での学習を通して、分かったことや感想をワークシート3に記入させる。	

5 博物館での学習

江戸時代の小倉城下町の様子や文化について調べよう。

博物館での学習
1時間

博物館の「テーマ館・江戸時代の北九州」には城下町小倉の模型、長崎街道の起点である常盤橋の欄干、長崎街道に関する展示、北九州市の海運に関する展示などがあり、小笠原氏の城下町であった当時の小倉の様子、また、そこで生活していた人々の暮らしなどを、展示物や紹介文などからうかがい知ることができます。「小倉城下町の様子」模型は、江戸時代後期の小倉城下町の様子をジオラマで再現したものです。

「西国内海名所一覧」を観察し、船や倉庫がたくさんあり、人通りが多い様子から、北九州が本州への玄関口にあり、交通の要衝の地として、大名の参勤交代、幕府の役人や外国使節の往来など、水陸ともに賑わいを見せていたことや、当時の人々や地域の様子をつかませることができます。

また、「なぜ、長崎街道を整備したのか」「なぜ、象が通ったのか」等について考えさせることにより、江戸幕府の国内政策や対外政策等の学習につないでいくこともできます。



小倉城下町の様子



西国内海名所一覧

江戸時代の小倉は、小笠原 15 万石の城下町で港町や宿場町として海陸交通の要の地として発展しました。城下町として栄えた小倉には様々な人やものが集まり産業が発展しました。

また、江戸時代初期、「鎖国」制が敷かれる以前には、小倉には「唐船」が入港しており、対外貿易も盛んでした。博物館にある、小倉城下町をえがいた「西国内海名所一覧」や「豊国名所」には、小倉織や三官飴、火打ち石など小倉を代表する名産が描かれています。これらの展示品を見学することにより、江戸時代の小倉のまちの人々の様子や文化について具体的につかむことができます。



小倉織袴



輸入陶磁器

1 小倉城下町を調べよう。

(1) 「西国内海名所一覧」の絵を見て、当時の小倉城下町の様子について気付いたことを書きましょう。

- ・海にたくさんの船が集まっている。
- ・港の近くに倉庫のような建物がたくさんある。
- ・道を大名行列のようなものが通っている。
- ・とてもにぎわっている感じがする。

(2) 江戸時代の小倉城下町の様子について、次の文の()にあてはまる言葉を入れ、文を完成させましょう。【ヒントは、テーマ館・近世の展示資料説明板にあります。】

- ・小倉城下町の町域は、東西に約(2) km、南北に(1.3) km、中央を(紫川)が流れ、北は響灘に接しています。
- ・「西国内海名所一覧」には、手前中央紫川にかかる(常盤)橋と河口の船溜ふなだまりを配置し、東西に走る(長崎街道)に連なる京町・(室)町の町並みが描かれています。
- ・小倉は、本州への渡航地でもあり、港町・(宿場町)の性格もそなえていました。

2 テーマ館・江戸時代の北九州の展示資料を調べて、江戸時代の小倉の名産品や、輸入品にはどのようなものがあったか書きましょう。

【小倉の名産品】

- ・小倉織 ・上野焼 ・三官飴

【輸入品】

- ・西洋のディナー皿、ケーキ皿、ティーカップ、盃、酒瓶

3 学習して分かったことや感想をまとめよう。

- ・江戸時代の文化の様子や交通・産業の発達、小倉の城下町についての記述が書かれていればよい。